

1 審議会等の名称	令和元年度第3回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和元年11月25日(月)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 ほか9名出席 計10名
4 諮問事項	三重県観光振興基本計画(令和2年度～5年度)最終案について
5 調査審議結果	<p>三重県観光振興基本計画(令和2年度～5年度)最終案について審議いただきました。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI、ICT、デジタルマーケティングなどに力を入れていく方向性で取りまとめられていることは妥当。 ・インバウンドをさらに伸ばしていくための施策を考えていくべき。伊勢志摩に欧米からの関心があるのはよくわかるが、パイの大きさを考慮すると、アジア諸国も大事。 ・働き手目線を導入したことを高く評価している。休みたいときに休めるなど観光業、サービス産業に若い人が定着していけるようにすべき。県内では、人手不足が原因で閉店する店舗も出てきている。個人事業は、家族経営で困難。技術者、職人、特に飲食店は人の替えがきかないなど、営業したくてもできないということが問題。一緒になって考えて欲しい。また、せつかく人材を育成しても、優秀な人材ほど外に出てしまうため、教育機関とうまく連携することや、海外からインターンなどで来る仕組みを作ることも重要。 ・二次交通については、今年は国からの補助も得てMaaSの実証実験に取り組んでいるが、事業者単独で継続して取り組んでいくのは困難も伴うため、採算面なども含めて継続していく方法を考えなければならない。三重をフィールドに二次交通をやっていただけるよう、東京などの企業にPRし、三重に投資してもらうことも重要。 ・MICEはせつかく伊勢志摩サミットの知名度を生かすのであれば、小さいテーマの会議を毎年開催する方向性もあり得る。また、国際会議だけでなく、インセンティブ、ブレジャーなどでのコンテンツ作りにも力を入れていけると良いのではないか。 ・観光防災について、現状は住民向けの取組が中心であり、観光客が置き去りになってしまっている。市町単位ではなく、もっと広域で取組を進められると良い。 ・SDGsへの貢献を重視する計画となっており、持続可能性を打ち出しているが、それを測るデータが集まらないといけない。 ・宿泊・飲食サービス業の収入額における目標値は、順位だけでなく収入額そのものも併記すべきである。 ・全体的に内容はすばらしいため、この計画をどのように実現していくのかが重要。特に、交通サービスについて、夜間のタクシー不足などの解消は急務。エリアを広げてタクシーをもっと広く利用できるようにするなど現実的な策が必要。
6 備考	